

鬼 だ	北上市立	館 より
	の	
第25号		



石碑供養儀礼



企画展 展示風景

「ハンバイ・ヘンベェ・ケンバイ」

今年の鬼の館は、企画展をはじめ鬼学講座やわんぱく講座などを通じて、鬼の館の原点でもある「鬼剣舞」一色で展開しています。勇壮な踊りとして知名度が高く北上を代表する民俗芸能「鬼剣舞」。そのルーツは口伝での縁起にとどまり明らかになっていません。

そこで、今回の企画展「ハンバイ・ヘンベェ・ケンバイ」（7月23日～9月17日）は、その謎めいた由来を仏教伝承面及び修験道や陰陽思想から解明するとともに、各種地域に分布する念仏剣舞と比較することにより、本来の姿を追求し、より一層の伝承効果をはかろうとするねらいのもとで開催されました。展示室には、剣舞と羽黒山修験山伏と役行者、また仏教の五大明王との関係を交えつつ、県内の剣舞装束をまとった等身大の人形や、石碑供養儀礼を復元したコーナーの他、各地域に伝わる古面や装束などが展示されました。



朴ノ木沢念仏剣舞装束

鬼の館 '06 上半期をふりかえって

特別展

故會田喜一 秘宝展

～剣・陶・書～ 9月23日(出)～10月22日(日)

昨年、北上市に寄贈された故會田喜一氏の数あるコレクションの中から、陶磁器や剣、書画など選りすぐりの作品、80点余りの展示です。江戸初期に焼かれたとされる豪快な絵柄の古九谷をはじめ、伊万里や鍋島の陶磁器などめったに見られないお宝を公開いたしております。



作陶展 展示風景

赤平さんは北上市に生まれ、当初はカメラ、写真に親しみ個展も開くほどでしたが、50歳頃より趣味から陶芸の道に入られ、1998年に陶芸工房「紅紫の森」を設立。人間の住空間に似合うような作品「空間の美」を追求し日々陶芸に没頭しておられます。また、赤平さんの作品には鬼剣舞をモチーフとした作品が多く見られます。そこで赤平さんと鬼剣舞との関わりについてご紹介します。



特別展・施設開放事業

作陶展

4月28日(金)～7月16日(日)

～北里の「鬼」炎・土・術～

鬼の館では、サークル活動や個人活動などを通じて制作された作品を公開する場として企画展示室をご利用いただいております。今年は北上市の陶芸家、赤平勝弘さんの陶芸作品を一堂に公開しました。赤平さんには会場作りから展示期間中も何度も足を運んでいただき、まるで日本庭園を思わせるような展示となりました。また、5月のゴールデンウィークには当館のエンターランスホールにて陶芸体験も行われ赤平さんの指導のもと、みなさん熱心に制作していました。



「郷土で自慢できるものといえば？」と聞かれたら、私は迷わず「鬼剣舞」！そう答えるでしょう。子供の頃から鬼剣舞の勇壮で華麗な踊り、囃子、太鼓の響きが胸を打ち心に焼きついていました。中学校の運動会では男子全員650人余りが鬼剣舞を踊り、衣装に面、刀、毛采、大口、胸当、笹りんどうの紋入りを手作りした思い出があります(大群舞で壮大なものでした)。今、その思い出を自分なりに土に込めて表現してみました。

早いもので焼物を始めてから10年、11年目にりましたが、なにしろ独学なもので人の何倍もの努力、試行錯誤の日々、未だ未だ模索中の作陶ですが、是非ご来場ご高覧くださいますようご案内申し上げます。

これからも陶芸の奥深さを知り、未知の可能性を追求し、生涯の生きがいにして楽しみながら行きたいと思って居ります。

紅紫の森 Chamii no Mori

主宰 赤平勝弘

■ 芸能公演



4月から10月までの第4日曜日に約1時間のステージをご覧頂いています。写真は「狐剣舞」と呼ばれる踊りで、急病による踊り子一人の欠員を稲荷大明神の化身である狐が代わって補い、無事奉納し終えたという伝説があります。

鬼の館の芸能公演には、鬼剣舞に魅了され毎回足を運ぶリピーターの方々が多くいらっしゃいますが、今回は10年間にもわたり芸能公演をビデオカメラに収め続けている盛岡市在住の千田善一さんに、お話を伺いましたのでご紹介します。

旧鬼柳村生まれの私ですが、若年の頃は剣舞、神楽、鹿踊等は、神社祭礼、農事祭礼等で見られる程度でしたが、北上みちのく芸能まつりが開催されるや、県内外の民俗芸能公演が一度に見られ、県内には相当数の種類と団体があり、中でも鬼剣舞、神楽、鹿踊が主役となっている。鬼剣舞の始祖的な踊組の岩崎鬼剣舞の里に平成6年鬼の館が完成、同8年5月同館の芸能公演を初めて鑑賞、詳細な解説で演ぜられる鬼剣舞に感嘆。以来10年になります。鬼剣舞の全演目は相当数に及び平成10～12年夏油スキー場で開催の全演目公演は真に圧巻でしたが、みちのく芸能まつりの中に全演目公演が組み込まれて来ています。県内の伝統芸能が、保育園児、小学生スポーツ少年団、高校のクラブ活動等での伝承活動には頭が下がる思いです。鬼剣舞の魅力の虜になった私ですが鬼剣舞をはじめとし郷土伝統芸能の益々の発展を祈念申し上げます。
(盛岡市 千田善一 75歳)

■ 大乘神楽大会 ～呪法・祈祷・術～

今年で12回目をむかえる大乘神楽大会。今年には花巻の円万寺神楽保存会をお迎えしての開催となりました。8団体の保存会の協力を得て、全14演目が披露されました。写真は、円万寺神楽保存会によって踊られた「鐘巻」という演目の一つです。そのストーリーとは、女人禁制の寺に女が訪れ参拝したいと申し込みます。別当は女の参拝は許さないと何度も断りますが、それでも女は諦めずとうとう寺に入り鐘をつきます。女は仏罰が下り鐘の下敷きになり蛇に姿を変えられ荒れ狂います。



そこに旅の僧侶が通りかかり、大蛇を退治するという情念と怨念が交錯する劇的な舞です。

■ こどもの目わくわくイベント



5月5日のこどもの日に、気軽に楽しめる創作活動などを通じて“鬼”に対する理解を深めます。今年も大勢の親子が参加し、様々なイベントに参加しました。毎年大人気の「鬼に変身」では鬼剣舞の衣装を着せてもらい、カッコよくポーズを決めて記念撮影をしたり、お面の絵付けや、ふわふわ浮かぶ妖怪風船を作ったり、石に絵を描き妖怪ペンダントを作ったりとみなさん思い思いの創作を楽しんでいたようです。5月5日は小中学生入館無料です。

出演保存会

道ノ上山伏神楽保存会、村崎野大乘神楽保存会
宿大乘神楽保存会、上宿和賀神楽保存会
新平神楽保存会、和賀大乘神楽保存会
築館神楽保存会

特別出演 円万寺神楽保存会

鬼になったり、鬼で遊んだり、鬼を作ったりできる、子どものための遊び場、それが「鬼ッズ・プレイミュージアム」です。活動の中心となっている「和紙面づくり」は、来館時に体験できる他、北上市の出前講座にも組み込まれています。市内の子供会や公民館、ふれあいデイサービス、小学校や養護学校の総合学習などにも活用されています。また、小学校の夏休みに合わせて、親子ワークショップを開催し、今年は「妖怪ゆめあかり」「赤おに青おに風鈴」

鬼ッズ・プレイミュージアム

鬼になったり、鬼で遊んだり、鬼を作ったりできる
「子どものための遊び場」



「鬼剣舞面」を制作しました。風鈴づくりの際には参加者のみなさんに短冊へお願い事を記入してもらいましたが、「強くなりたい」と書いた男の子や、「新体操で1番になる」というがんばり屋さんな女の子、また「弟と妹が病気をしませんように」と書いた弟妹思いの男の子、「家族みんなが長生きできますように」というやさしい心の女の子の他、「鬼になりませんように」と書いたお父さんもいらっしゃいました。

鬼学講座

「鬼の源流を求めて パートⅩ
～民俗芸能に生きる鬼たち～」

- 第1回：8月20日 北上市の民俗芸能
「藩境と鬼剣舞・鹿踊」
第2回：9月10日 地域に根ざした鬼剣舞
「剣舞と人とのつながり」

生涯学習の一環として開講している成人対象の講座です。今年は芸能と鬼との関わりを歴史的背景や伝承経路、巻物など多方面から分析します。第1回は北上市文化財保護審議会委員の熊谷保氏を、第2回は岩崎鬼剣舞保存会会長の和田国男氏をお迎えしての講座となりました。今年の鬼学は全5回講座、移動研修では秋田県保呂羽山の霜月神楽の鑑賞を予定しております。

下半期のお知らせ

◎特別展 江戸時代からの贈り物 10月29日(日)～12月10日(日)

江戸時代初頭、街道筋のお土産だった庶民性豊かな民画である「大津絵」に関する作品を歴史資料ばかりでなく、現代画家による美術作品なども合わせて比較展示いたします。

匠の伝承展（開放事業②） 12月16日(土)～平成19年2月25日(日)

書や絵画、彫刻作品や手芸など市民の方々の自慢の作品を募集し、展示します。

平成18年度収蔵資料展 平成19年3月4日(日)～4月15日(日)

平成18年度に収集した資料を公開します。

鬼のお散歩（巡回移動展：予定）

北上市内の高校に出向き、東北の鬼をテーマに巡回移動展を開催します。

◎芸能公演 10月22日(日) 御免町鬼剣舞・3月25日(日) 二子鬼剣舞

◎鬼学講座 10月15日(日) 民俗芸能の派生と背景～芸能と民衆の祈り

10月29日(日) 修験芸能と反閤・足踏み

11月7日(火)～8日(水) 保呂羽山霜月祭り（移動研修）

◎福豆節分会 2月4日(日)



金ヶ崎・北上PA展示

7月26日(木)～8月31日(木)

夏休みや盆の帰省ラッシュ、また夏祭り等でたくさんのお客さんが利用する高速道路のパーキングエリアに北上市と鬼の係わり合いをPRしようと、奥羽道路サービス(株)の依頼による「北上市と鬼」展(その7)と題した展示が行われました。金ヶ崎・北上PA下り線の食堂には鬼剣舞の面や写真など北上の文化でもってお迎えする一方、上り線にはアラレちゃんやウルトラマン、パーマンなど昔懐かしキャラクター面の展示によってこれから帰っていくお客さんたちも和んでいただけたのではないのでしょうか。



mini 鬼知識

「花嫁の角隠しと鬼の関係は？」

初めて鬼の館へ来られた方はよく常設展示の変化鬼面に驚くようです。きれいな女性の面が一瞬にして般若に変わる仕掛けです。女性が嫉妬することをよく「角を出す」というように、女性には隠れた角があると信じられていましたから、花嫁の時はそれを隠して嫁入りするのです。能楽などで、女性の生霊が嫉妬により次第に鬼へと変化していくときに角が生えてきます。女性が嫉妬に狂った末になる鬼は般若で、見事な角を持っています。女性は誰でも般若のような角を隠しもっているということでしょうか。



～マルチメディア鬼百科より～

『できごと Oni ミュージアム』

統一テーマは鬼剣舞

主要事業計画決まる 鬼の館 (週間きたかみ 4/22)

青空の下荘厳な舞

鬼の館芸能公演スタート (岩手日日 4/24)

子どもの日ワクワクイベント ご家族で楽しんで

5月5日 鬼の館で遊ぼう (週間きたかみ 4/29)

鬼ってどんな顔?

鬼の館イベント お面塗りに挑戦 (岩手日日 5/7)

炎から生まれる土と情念の世界

赤平勝弘さん作陶展 (週間きたかみ 5/27)

修験の呪法舞を伝承

堪能しよう 大乘神楽 (岩手日日 5/28)

勇壮な舞奉納 和賀氏の遺徳しのぶ

岩崎城絵巻まつり (岩手日日 6/5)

映像資料DVD化や道具類の更新

北上市民俗芸能保存伝承事業 (岩手日日 6/25)

いわて民俗芸能入門

解説書を増刷 (岩手日日 6/29)

闇夜に浮かぶ勇壮な演舞 夏油温泉かがり火公演

観衆を幻想的世界へ誘う (岩手日日 7/24)

地元に念願の稽古場開所

二子流東京鬼剣舞 (岩手日日 7/24)

夏休みに作っちゃおう

ゆめあかり、風鈴、張り子面… (週間きたかみ 7/29)

みちのく芸能まつり

若い力でさらなる伝承 (河北新報 7/30)

鬼剣舞合同大供養で幕開け

地域伝承の舞披露 (岩手日日 8/6)

鬼の館「鬼学講座」始まる

「藩境が芸能育てた」熊谷氏(市文化財保護審議会委員)が解説 (岩手日日 8/21)

装束でたどる岩手の剣舞 ～北上市立鬼の館企画展

「ヘンバイ・ヘンベエ・ケンバイ」より

第1回 川西大念仏剣舞「オッコミ」装束
念仏剣舞① 安倍一族弔う武者姿

第2回 朴ノ木沢念仏剣舞装束
念仏剣舞② 伝承地域で異なる采

第3回 岩崎鬼剣舞装束
念仏剣舞③ 五大明王表す5色の面

第4回 赤澤鎧剣舞装束
鎧剣舞 亡霊濟度の意識強い鎧装束

第5回 田代念仏剣舞装束
高館剣舞 仮面なく、頭に烏帽子

第6回 寄木念仏剣舞 「長刀おどり」
高館剣舞(混合) 脱ぎ垂や鎧 多要素持つ

第7回 高田念仏剣舞 台笠
大念仏剣舞 阿弥陀堂を表す大笠(台笠)

第8回 道地ひな子剣舞装束
ひなこ剣舞 早乙女模し華やか

第9回 剣舞装束 大口
由来、供養対象を象徴する絵柄

(岩手日日 8/21～29日)

けんばい 「剣舞」あれこれ

北上市立鬼の館 館長 力丸 光雄



鬼剣舞面（白）



鬼剣舞面（黒）

菅江真澄が天明年間（江戸後期）、仙台領の徳岡（現岩手県奥州市胆沢区）滞在中の記事に、「けんばい」についてつぎのようにある：けむばひは けむまいを詛りていへる也 此剣舞てふものは いか目の仮面をかけ 袴着 襷して髪ふりみだし 軍扇を持 また太刀はき つるぎを抜きて舞ふ 此剣舞を高館物化ともいふ也（原文の通りではない）。

岩手県内で受け継がれ、広く行われている剣舞は「けんまい」でも「けんぶ」でもない。それは、陰陽師や修験者の呪法の一つ「へんばい」の転訛であると説かれている。反問、反閉、返陪などと書かれる「へんばい」（あるいは「へんべえ」）は、足で踏みしめ、邪気を封じる所作である。

これら剣舞はなべて念仏供養の踊りである。盛岡市南部から花巻市にかけての大念仏剣舞—阿弥陀堂をいただく巨大な「笠振り」や北上市西部の女兒を主とするひなこ剣舞はその典型で、いずれも素面で踊る。

賢治の「イーハトーブ」（〔注〕1）が、最近は独り歩きして、イーハトーブ岩手＝ドリームランドのような使いかたをされているが、少なくとも戦前までの岩手の庶民のくらしは生きながらの「地獄」であった。殊にも藩政時代の苛斂誅求、うち続く飢渴、止むに止まれぬ百姓一揆と情容赦ない処罰…。人々はそのような生活のなかで、無惨な犠牲者をとむらい、かつは厭離穢土、欣求浄土と踊ったのであろう。

〔注〕1. 岩手の旧假名遣い「いはて」からの賢治の造語。イーハトーブ童話集『注文の多い料理店』の広告文で賢治は、「イーハトーブは（略）実に著者の心象中にこ

のような状景を以て実在したドリームランドとしての日本岩手県である。」といっている（傍点筆者）。

さらにさかのぼれば、岩手の地には、大和に侵略され滅ぼされた日高見（国）の蝦夷をはじめ、安倍一族、平泉藤原氏、義経主従など、もろもろの怨念がこもっている。たしかに剣舞のなかにはそのような怨霊を鎮めるために始められたといわれるものもある。県南部で行われる仮面をつけた念仏剣舞や海岸地方の鎧剣舞などがその例で、踊り手は亡霊（平氏のそれとされるものもある）の姿とされ、踊りの過程で済度されて、つぎつぎと踊りの庭から消えてゆく。

北上市および周辺の念仏剣舞は「鬼剣舞」と呼ばれている（〔注〕2）。鬼剣舞の面は、たしかに怖い顔をしているが、決して「鬼面」ではない。明王すなわち仏（如来）の「教令輪身」（〔注〕3）で、「忿怒」のさまである。外国ではその外貌から明王を悪魔と誤解するむきもあるがそうではない。「鬼剣舞」は devil dance でも demon dance でもないのである。

〔注〕2. 『広辞苑』の「けんばい」の項に、「念仏踊りの一種。鬼剣舞。」とあるが、決して剣舞＝鬼剣舞ではない。なお、岩崎鬼剣舞発祥の地、旧和賀町岩崎に「ふるさと創生事業」として設立されたのが現在北上市立の「鬼の館」である。

〔注〕3. 如来（仏）は、機に応じて変身する。叱りつけなければわからないような者には忿怒の姿をとり、命令をもって教化する。これが教令輪身である。



そもそも漢字の「鬼」は「亡魂」「亡霊」を表す。その意味では県南の念仏剣舞の踊り手こそ鬼である。万葉の頃には「鬼」は「もの」と読まれた。「高館物化(怪)」は、まさに「もののけ」であり、東日本で子どもをすかすのに「モウコが来るぞ」などといったのもモッコ、モッカ、つまり物怪である。

「もののけ」を払う密教の儀礼が「五壇御修法」。すなわち降三世・軍荼利・大威徳・金剛夜叉の諸明王と中心になる不動明王の「五大」の壇を連ねて行う大修法である。鬼剣舞の青・赤・白・黒の面は四明王に対応する。ただし、不動明王であるはずの黄(茶)色の面はなぜか道化役(「カッカタ」)になっている。

享保17(1732)年に書かれた岩崎鬼剣舞の「念仏剣舞由来」によると、平安の初頭、羽黒山の法印善行院が靈感を得て踊り始めたというが、これとは別に、江戸時代の初めの頃に県南花泉の羽黒派大徳院の法印が、五大明王の仮面で舞うことを旅僧から習ったという言い伝えがあるようである。13世紀末に北上の極楽寺で成立した「行者舞」の流れであろうという。

岩崎には、18世紀の巻物があるにもかかわらず、明治初年(1870)に南下幅(現奥州市胆沢区南都田)から剣舞の伝授があったと伝えられる。これは、岩崎と南下幅が藩政時代から交流があり、岩崎で中断したものを逆移入したということであろうか。岩崎は盛岡(南部)領、南下幅は仙台(伊達)領である。往来の取締りがきびしい藩境を越

えて両者をつないだのが「隠し念仏」(〔注〕4)の渋谷地派だったといわれる。

〔注〕4. 18世紀半ばに迫害され、地下に潜行した念仏信仰。岩手県南部などには今も残る。

明治以降岩崎鬼剣舞は周辺に伝承され、現在北上市では十二の踊り組が活動している。演目も十幾つかあるが、ここ数年間の「鬼の館」での月毎の公演をまとめてみると、好まれる演目は決まっているようである。圧倒的に多いのは「一番庭の狂い」と「刀剣舞の狂い」。前者は格調高い礼舞「一番庭」のくずし、後者は躍動的な太刀踊りである。「膳舞」「宙返り」「カニむくり」といった曲芸的な演目も同じように頻りに踊られ、いわゆる「加護もの」(偉物の踊り)がこれらに次ぐ。逆に少ないのは念仏の入る「刀剣舞」や特異な「狐剣舞」。「カッカタの踊り」(田植え踊りなどでよく見られるいささか卑猥ともとれる所作の入った踊り)も稀である。

先に反閤についてふれたが、いまの鬼剣舞の踊りを見てみると、反閤をふむ「一人加護」は別として、足の運びは踏みしめるといよりはずっと軽やかである。念仏によって救われた怨霊すなわち「鬼」の「歓喜踊躍」の様ともとれる。

賢治の詩「原体剣舞連」はよく知られている。稚児剣舞に分類される原体村(現奥州市江刺区)の剣舞は高館物怪ともかかわるらしい。同作品の題名に(mental sketch modified)とある通り、かなり修飾された描写であり、dah-dah-sko-dah-dah-dahという音は「鹿踊り」の太鼓にも聞こえるし、〈気圏の戦士わが朋たちよ／(略)／ひのきの髪をうちゆすり／(略)／あたらしい星雲を燃せ〉といった勇壮な踊りのさまは、むしろ鬼剣舞を思い起こさせる。

(本稿を草するに当たり、主に「門屋光昭編：『岩崎鬼剣舞』(和賀町教育委員会)昭和60年3月」を参考にした。)

鬼の里だより

● 企画展・特別展

- 〈特別展〉「平成17年度収蔵資料展／原画で見る鬼絵本」
2月28日～4月16日 入込客数 2,064人
- 〈特別展〉「作陶展 ～北里の「鬼」炎・土・術～」
4月28日～7月16日 入込客数 6,556人
- 〈企画展〉「ヘンバイ・ヘンベェ・ケンバイ」
7月23日～9月17日 入込客数 5,400人
- 〈特別展〉「故會田喜一 秘宝展」
9月23日～10月22日 (開催中)

● 鬼学講座

- 第1回 8月20日 受講者 37人
第2回 9月10日 受講者 25人

● 鬼っこわんぱく講座

- 5月5日「こどもの日わくわくイベント」
参加者 345人

● 大乘神楽大会

- 6月11日 観客 262人

● 鬼ッズ・プレイミュージアム

- 4月1日～9月30日
和紙面づくり 参加者 207人
出前講座 参加者 208人

● 鬼の館 芸能公演

- | | | |
|-------|-----------|-----------|
| 4月23日 | 相去鬼剣舞保存会 | 入込客数 94人 |
| 4月30日 | 岩崎鬼剣舞保存会 | 入込客数 137人 |
| 5月4日 | 岩崎鬼剣舞保存会 | 入込客数 174人 |
| 5月28日 | 谷地鬼剣舞保存会 | 入込客数 85人 |
| 6月25日 | 飯豊鬼剣舞保存会 | 入込客数 117人 |
| 7月23日 | 鬼柳鬼剣舞保存会 | 入込客数 135人 |
| 8月14日 | 岩崎鬼剣舞保存会 | 入込客数 276人 |
| 8月27日 | 滑田鬼剣舞保存会 | 入込客数 143人 |
| 9月24日 | 北藤根鬼剣舞保存会 | 入込客数 114人 |

〈夏休みワークショップ〉

- 妖怪ゆめあかり作り 参加者 42人
赤おに青おに風鈴づくり 参加者 41人
鬼剣舞面づくり 参加者 37人

利用案内

開館時間 午前9時から午後5時まで。
なお、入館は午後4時30分まで。

- 休館日**
- ・12月～3月の月曜日
 - ・12月～3月の国民の祝日の翌日
(土・日・月の場合は火曜日)
 - ・館内整理日(11月27日～11月30日)
 - ・年末年始(12月28日～1月4日)
 - ・臨時休館日(5/23・7/25・9/26・11/21)

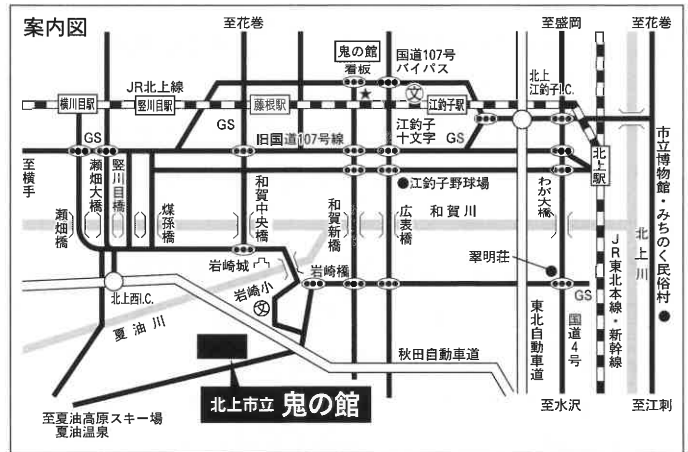
入館料

一般	300円(250円)
高校生	200円(150円)
小中学生	150円(100円)

()内は20人以上の団体料金。
下記の場合、市内小中学生は入館料が免除になります。

- ・毎週土・日曜日
- ・学習活動で申請利用する時

- 交通案内**
- ・JR北上駅西口よりバスで25分。
煤孫経由横川目行、瀬美温泉行。「岩崎橋」下車徒歩10分。
 - ・JR北上駅より車で20分。
 - ・東北自動車道「北上江釣子I.C.」、秋田自動車道「北上西I.C.」よりともに車で15分。



北上市立鬼の館だより

第 25 号 2006. 9. 30

編集・発行 北上市立鬼の館

〒024-0321 北上市和賀町岩崎16地割131番地
TEL 0197(73)8488 FAX 0197(73)8508